特集 多文化共生

やさしい日本語でつながるまちへ

さまざまな国籍の人が共に生きる町　倶知安

近年、国際リゾートとして注目を集め、さまざまな国籍の人が共に暮らす町となった倶知安町。

新型コロナウイルス流行前の令和2年1月には、町民全体に占める外国籍住民の割合が15％と過去最高を記録し、同時に人口が24年ぶりに1万7千人を超えました。

以降は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴って徐々に減少し、今年7月末現在、倶知安町に暮らす外国籍住民は637人で、人口の4・4％となっています。

しかし、感染防止対策を講じた上での行動制限の緩和、国際的な人の往来の再開などを受け、これからは徐々に人の流れが戻るのではないかと予想されています。

多くの観光客を迎えるためには、町内で働く外国人の存在は必要不可欠になります。日本人も外国人も同じ町民として、お互いに歩み寄る気持ちでコミュニケーションを取ることが大切です。

「ことば」がお互いを繋ぐきっかけに

日本人住民と外国籍住民との間では、言葉が通じないことで十分なコミュニケーションが取れず、トラブルとなるケースも見られています。

町が令和元年9月に実施した「多文化共生のまちづくりアンケート」によると、日本人住民は外国籍住民と生活していくために必要なことを「ことば」と考える人が最も多く、外国籍住民からは、「日本語の学習機会があれば学びたい」、「日本語教室を充実させてほしい」という声が多くありました。

そのような現状をふまえ、町では、令和3年度より、外国人にも伝わりやすい簡単な日本語「やさしい日本語」を用いた日本語教室を開催しています。

この教室では、文法や読み書きの習得ではなく、日本語に親しみ、町民や地域を身近に感じられる場づくりや、日本語の学習意欲に繋げてもらうことを目的としています。

多国籍化が進み「ことば」もさまざまに

外国籍住民数の増加とともに国籍も多様化し、現在は約50カ国の人々が倶知安町に住んでいます。（下表）

多国籍化が進むと、すべての人に対して、彼らの母語で対応することは難しくなります。

国・地域名	人数
オーストラリア	116
英国	69
中国	68
台湾	50
フィリピン	46
米国	34
その他	299
計（全51カ国）	682

国籍別外国人住民数（人）
※令和4年1月末時点

日本語も立派な選択肢の一つ

『生活のための日本語：全国調査』（（独）国立国語研究所）によると、日本国内に住む外国人のうち、英語ができる人は約4割、日本語ができる人は約6割であるとされています。

そのため、外国人と接する場合、日本語で話すというのは立派な選択肢の一つであるといえるのです。

しかし、外国人が私たちの普段の会話を理解するのは難しく、文字の読み書きも大変です。そのため、日本語を使うときには、より外国人に伝わりやすい**「やさしい日本語」**を用いるといいでしょう。

外国人と日本語で話してみよう

本町の日本語教室では、町民が「サポーター」となり、学習者の日本語を引き出します。

教室の前には「サポーター勉強会」を実施し、教室でのサポートの方法やポイントなどについて学んだ上で、教室に参加することができます。

特別な資格や経験は不要で、興味のある方は誰でもサポーターになることができます。

▲サポーター勉強会の様子

▲日本語教室の様子

教室では、英語などの外国語は使わず、日本語のみで交流します。サポーターは、話したいことを「やさしい日本語」に置き換え、簡単な言葉で伝えることを心がけます。

先生と生徒のような関係ではなく、同じ町民として対等な立場で交流するのがこの教室の特徴です。

外国籍住民が日本語に触れるだけではなく、お互いの文化の違いを知り、理解を深めるなど、日本人と外国人が互いに学び合う機会にもなっています。

外国籍住民への日本語学習支援に興味のある方を対象に、日本語学習支援者養成講座を開催します。
詳しくは9ページをご覧ください。

今日からはじめる 多文化共生

多文化共生

国籍や言葉、文化や習慣の異なる人々がお互いを受け入れて認め合い、尊重しながら共に生きていくこと

倶知安町に暮らすわたしたちにとって、生活の中で外国人を見かけることは日常的な光景です。言葉や文化の違いをお互いに理解し、安心して暮らすために、今日からできる「多文化共生」について考えてみましょう。

1 まずはお互いを知ることから

Check!!

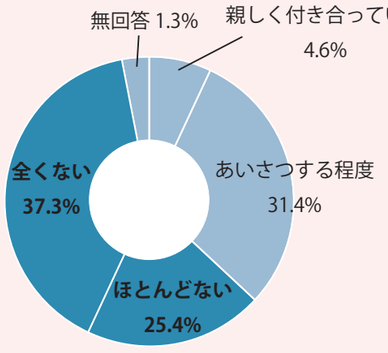
自分の国を離れると誰もが外国人。言葉も暮らしも違うのは当然のことです。違いを理解したり、分からないことは教え合ったり、お互いに歩み寄る気持ちが大切です。

	外国人の声	日本人の声
不安に思うこと	○町内会に加入したいがよくわからない ○日本語を勉強したいが先生がいない ○歓迎されていないと感じることがある	○文化や生活習慣の違いによるトラブル ○言葉が通じず苦労した経験がある ○日本のルールをしっかりと教えることが大切
こんな町になったらいいな	○もっと日本語を学びたい ○互いに助け合える関係を築きたい ○日本の生活や文化を知りたい	○子どもたちが多様な文化を知る機会に ○日本人と外国人がもっと交流できたらいい ○町内会のごみ拾いや花植えを一緒にしたい

［多文化共生のまちづくりアンケート（R1）
くっちゃん日本語教室アンケート（R4）より］

2 あいさつからはじめよう

Q 近隣の外国籍住民との付き合いについて



［多文化共生のまちづくりアンケート（R1）より］

Check!!

近隣の外国籍住民との付き合いについて、半数以上があいさつや交流がないという結果になりました。会話ができなくても、「こんにちは」というあいさつや、歩み寄ろうという気持ちは伝わるはずです。お互いに声をかけ合える関係を築くことで、その後のあらゆるトラブルを防ぐことにも繋がります。

3 やさしい日本語で話してみよう

やさしい日本語のはじまり

平成７年、阪神・淡路大震災の被災時、外国人に必要な情報を十分に届けられなかったという経験を教訓に、緊急時の有効な情報提供について研究が進められました。多言語対応ができない状況においては、簡単な日本語が一番、多くの外国人に通じるということが分かり、そこから「やさしい日本語」が浸透していきました。

「はさみの法則」を覚えよう！　［吉開 章『入門・やさしい日本語 外国人と日本語で話そう』（アスク出版 2020）より］

は っきり … 遠回しな表現を避け、はっきりと伝える

例　えーっと、ここから病院まではバスがあるんだけど、いや、歩いたほうが早いかもしれないなあ…

変換 → 伝えたいことだけをはっきり！

ここから病院まで歩いて10分くらいです。

さ いごまで … 文末をあいまいにせず、「です」「ます」「ください」で言いきる

例　ここにゴミを投げないでほしいんですけど…

変換 → 語尾はしっかり！最後まで！

ここにゴミを捨てないでください。

※方言は使わない！

み じかく … 一文を短く区切って、ゆっくり話す

例　佐藤：今日、急に除雪が入ることになってね、ベンさんの車も動かさなきゃいけないんだけど…
10時に入るみたいだから、その前に動かしておいてね。

変換 → 一文を短く！相手の反応を見ながらゆっくり話す！

佐藤：今日の10時に、雪を片付けるために、大きい車が来ます。
ベン：そうなんですか。　※熟語は使わず簡単な言葉に！
佐藤：ベンさんの車を動かしてください。邪魔にならないところに止めてください。
ベン：わかりました。

Check!!

日本に住んでいるのに日本語ではなく英語で話しかけられると、「外の人」として扱われているような気持ちになることがあります。「外国人＝英語」という意識が、相手を複雑な気持ちにさせているかもしれません。
今日からは、やさしい日本語で話しかけてみましょう！
相手との心の距離を縮めるきっかけになるはずです。